



8:38 四王寺県民の森センター駐車場

9時集合、ここに1台デポし、焼米ヶ原駐車場に向かう



特別史跡 おおのじょうあと
大野城跡

所在地 宇美町、太宰府市、大野城市
史跡指定 昭和 7 年 7 月 23 日
特別史跡指定 昭和 28 年 3 月 31 日



大宰府の防衛網

大野城とは

ここ四王寺山の一帯には、今から1300年以上前の665年に築かれた朝鮮式山城の跡があります。名を大野城といい、頂上域全体を囲むように土や石の城壁を巡らし、その中に建物を建てました。約70棟の建物跡が見つかっており、そのほとんどが高床の倉庫と考えられます。城壁は総延長約8kmにおよび、現在のところ、9箇所の城門（出入口）が確認されています。

この大野城は同時に築かれた基肄城（眼下の平野をはさんで向い側（南）にある基山）、前年の664年に造られた水城とともに大宰府地域を守る役目を果たしました。

大野城が築かれた理由

7世紀の中頃、朝鮮半島では高句麗・新羅・百済の三国が抗争を繰り返し、唐と手を結んだ新羅から、百済と日本の連合軍は大敗するという事件（白村江の戦い）が起きます。唐と新羅の侵襲を恐れた日本は九州北部を中心に防衛網を作りますが、その一つが大野城、基肄城、水城です。

城の構造（城壁と建物）

城壁の尾根の部分には土塁（土をつき固めて積み上げる工法を用いた城壁）、谷の部分には石垣を築いています。高床倉庫があった場所には、現在、礎石（柱が立っていた石）だけが残っています。倉庫内には米などを収納していたと考えられます。この近くの倉庫群跡（尾花礎石群）周辺からは炭化した米が見つかったため、焼米ヶ原と呼ばれています。

四王寺山の名

築造開始から、約100年経った奈良時代末、大野城内に四天王寺を建て、仏教の力で国を守ろうとしました。四王寺山という今の名は、この時の寺の名に由来するものです。



ハツ波礎石群



百間石垣



城門等位置図



尾花地区土塁



大宰府口城門跡

大野城と万葉集

奈良時代の人は大野城があったこの山を大野山、大城山と呼び、歌に詠みました。

大野山霧立ち渡る我が嘆く
おきその風に霧立ち渡る 山上徳良
(大野山に霧が立ち渡る わたしの嘆くため息の風で霧が立ち渡る)

今もかも大城の山にほととぎす
鳴きとよむらむ我なけれども 大伴坂上郎女
(今も大城の山ではほととぎす鳴き立っていることだろう、わたしがいなくても)

平成14年3月31日 設置
財団法人大宰府保存協会
財団法人九州国立博物館設置連携財団
福岡県教育庁総務課文化財保護課
(図版及び写真提供：九州歴史資料館)



大野城とは

ここ四王寺山しおうじの一带には、今から1,300年以上前の665年に築かれた朝鮮式山城の跡があります。名を大野城といい、頂上域全体を囲むように土や石の城壁を巡らし、その中に建物を建てました。約70棟の建物跡が見つかり、そのほとんどが高床たかゆかの倉庫と考えられます。城壁は総延長約8kmにおよび、現在のところ、9箇所きゅうしよの城門（出入口）が確認されています。

この大野城は同時に築かれた基肄城きいじよ（眼下の平野をはさんで向い側（南）にある基山）、前年の664年に造られた水城みずきとともに大宰府地域を守る役目を果たしました。

大野城が築かれた理由

7世紀の中頃、朝鮮半島では高句麗こうくり・新羅しんら・百済くだらの三国が抗争を繰り返し、唐と手を結んだ新羅から、百済と日本の連合軍は大敗するという事件（白村江の戦い）が起きます。唐と新羅の侵攻を恐れた日本は九州北部を中心に防衛網を作りますが、その一つが大野城、基肄城、水城です。

城の構造（城壁と建物）

城壁の尾根の部分には土塁（土をつき固めて積み上げる工法を用いた城壁）、谷の部分には石垣を築いています。

高床倉庫があった場所には、現在、礎石そせき（柱が立っていた石）だけが残っています。倉庫内には米などを収納していたと考えられます。この近くの倉庫群跡おばな（尾花礎石群）周辺からは炭化した米が見つかったため、焼米ヶ原と呼ばれています。

四王寺山の名

築造開始から、約100年経った奈良時代末、大野城内に四天王寺を建て、仏教の力で国を守ろうとしました。四王寺山という今の名は、この時の寺の名に由来するものです。

おのじょうあとどるい 大野城跡の土塁

山全体をとり囲むように
土塁（城壁）があります。
土塁は約8キロあります。
ここの土塁の上からは
九州国立博物館がみえます。



宇美小学校 歴史クラブ

平成27年11月

藤木 欧祐

西田 優知

松本 侑大

藤木 陽亜

八田 颯士



ヤシャブシ (夜叉倍子) カバノキ科
パイオニアプランツ Japanese Green Alder

九州国立博物館



9:04



9:15
9番札所



10番札所



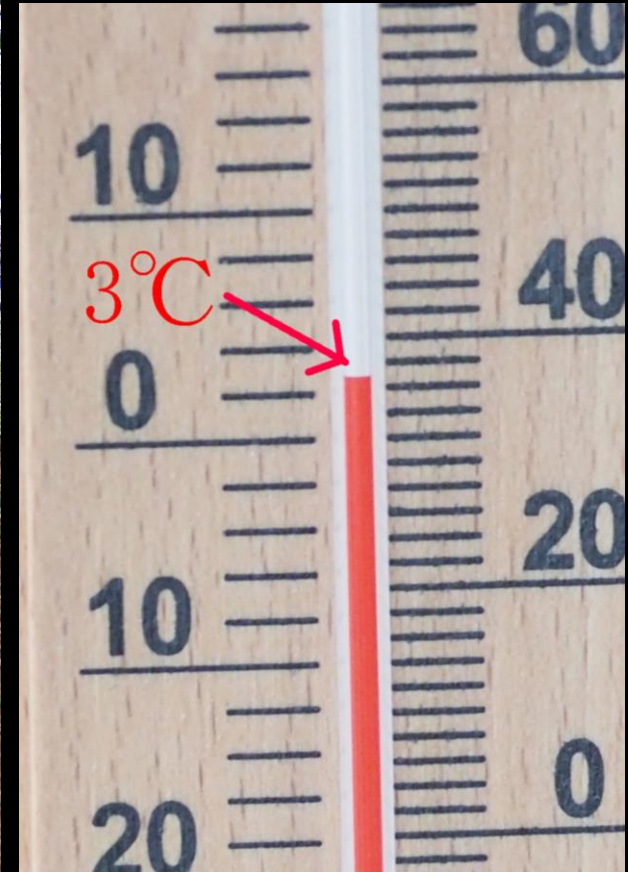
立花山 (たちばなやま) 367m

9:20





9:35
大原山355m山頂







17 札所

17 聖観音菩薩

四王寺
第17

9:46

17 番札所

9:46
17番札所



セリバオウレン (芹葉黄連)
キンポウゲ科





セリバオウレン
(芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン
(芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン
(芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン (芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン (芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン (芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン (芹葉黄連)
キンポウゲ科



セリバオウレン (芹葉黄連)
キンポウゲ科



18番札所



10:16 小石垣



フユイチゴ (冬莓)
バラ科



ヤブコウジ (藪柑子)
ヤブコウジ科 落葉小低木
別名: 十両

A photograph of a stone wall built on a grassy hillside. The wall is constructed from irregular, greyish-brown stones, some of which are covered in moss. The hillside is covered in dry, brown grass and some green patches. A path of stones leads up to the wall from the bottom center. In the background, there are trees, some with bare branches and some with green leaves. The sky is overcast.

10:20
小石垣



10:31

10:31



四王寺33ヶ所石仙
第20番札所

10:32





10:32
鮎返りの滝



10:39
百間石垣



10:41
百間石垣



10:41
百間石垣



10:41
22番札所

22
千手観音菩薩

22

百

間

石

垣

10:42
百間石垣







若杉山681m

11:01

11:06 野外音楽堂





11:06 宝満山829m方面



子供の国

桜の園

焼米ヶ原

木の体験広場

県民の森センター

もみじ谷

八ツ波

毘沙門天

大城山

410M

花

主城原

野外交楽堂

北石垣

百間石垣

現在地

里閉鎖中

船石

礎石



11:32
大城山 (おおきやま) 410m山頂

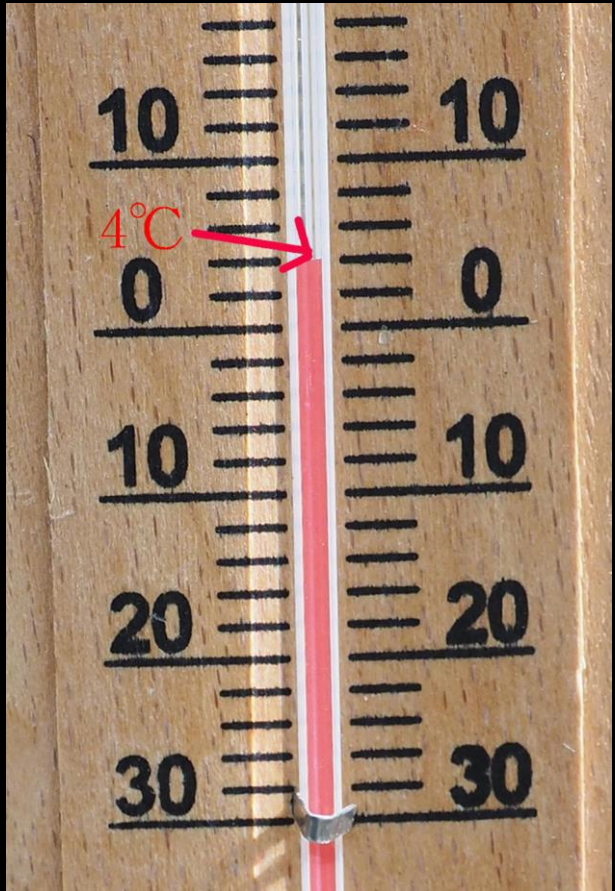


L 10 m

大城山
410M



11:32
大城山 (おおきやま)410m山頂



大野城歴史の散歩道 展望所③

「大野城に登れば日本の古代が見える！」

細長い緑の帯は水城跡。奥の牛頭山麓には、須恵器窯跡が今も残ります。水城の東西の門からのびる官道を使って、大宰府や鴻臚館などへ人やモノが往来していました。



大宰府政庁跡



水城西門跡



水城東門礎



官道跡 (谷川遺跡)



御笠の森



鴻臚館跡 (舞鶴公園内)

平成 28 年 3 月 大野城市教育委員会

九千部山(くせんぶさん)848m



背振山(せぶりさん)1055m



牛頸山448m

本城跡

11:37



水城跡

11:37

毘沙門堂

住所：宇美町大字四王寺314

毎年、1月3日、ここ毘沙門堂で、「四王寺毘沙門詣り」が行われます。

早朝から、毘沙門堂を目指し、多くの参拝客が山道を登ってきます。参拝者は、お堂の前に置かれたお盆からお賽銭を借りて帰り、翌年の参拝のときに、借りたお賽銭の倍の額を返し、また新たにお賽銭を借りて帰るということを繰り返すものです。このお詣りをするので、1年間お金に不自由しないと伝えられています。

江戸時代の古文書「筑前國続風土記拾遺」には、「村（四王寺村）の西の峰高き所に在。石の堂也。石像 長一尺八寸計有、近年別に木像を作て傍らに置ケたり。但石躰も中世以降の作とミゆ。往古の像は烏有と成しにや今はなし。祭日両度正月三日九月十三日山伏竈門山派成泉坊奉祀す。」という記録があります。

この文章を読み解くと、石像を納めた石堂があり、旧暦の正月3日と9月13日に成泉坊という山伏が神事を行っていることがわかります。

「四王寺毘沙門詣り」は、宇美町指定民俗文化財になっており、現在、四王寺地区の住民の方々によって、大切に守り続けられている行事です。



○問い合わせ○

宇美町教育委員会 社会教育課

TEL 092-933-2600

四王寺県民の森管理事務所

TEL 092-932-7373



11:41
毘沙門堂

26番

26番
千手観音菩薩



11:56
26番札所

11時33分所
第26番札所

九千部山(くせんぶさん)848m



牛頸山448m

大宰府インター

11:58



大宰府インター

11:58



12:07
広目天礎石群

27番札所

3ヶ所石仏
番札所



あけてみよう！歴史のとびら 大野城をあるく(けいさしの井戸)

前回紹介した水城口城門の礎石の横に立つと、山手に向かって伸びる細い道があります。その道を進むと、間もなく右手に木の少ない場所があり、そこに目指す井戸があります。

けいさしの井戸の調査

この井戸の地形は、鏡ヶ池によく似ており、すり鉢状にくぼんだ土地の真ん中に作られています。

正式な発掘調査は行われていませんが、2回報告がなされています。

1回目は大正15年、島田寅次郎さんによるものです。島田さんは、文献・伝承をもとに四王院(奈良時代創建)に関連するものとしています。

2回目は、鏡山 猛さん・小田富士雄さんによるもので、昭和34年に行われました。『大宰府都城の研究』や『九州考古学研究—歴史時代篇—』の中で、構造について詳細に報告されています。その調査によると、井戸は円形の石組みで、大きさは直径約52センチメートル・深さ約164センチメートル・底の直径約73センチメートル。

石組みは、ほとんど自然のままの石を積み上げた「野面積み(のづらづみ)」になっています。井戸の底近くには、丸太を井戸の「井」の字のように組み合わせています。

底は板敷きです。

県内の発掘調査の成果を見る限り、奈良時代に使われた井戸は、板などを方形に組んだものがほとんどです。石組みの井戸が現れるのは、鎌倉～戦国時代になってからのため、「けいさしの井戸」の石組みは、後世の補修だと考えられます。

ところで、井戸は昭和34年の調査以前は常に水を1メートル程度たたえていたとの報告もあります。

しかし、現在は地上から約1メートルの深さまで落葉などで埋まっています。



12:11



12:10

四王寺33ヶ所石仏
第28番札所

28

28
番札所



12:16
28番札所

背振山(せふりさん) 1055m



油山597m

12:16



12:39



12:52
30番札所



12:49
29番札所



クログネモチ (黒鉄藪)
モチノキ科



クログネモチ (黒鉄藪) モチノキ科



コゲラ (小啄木鳥)
キツツキ科 L=15cm



13:03

32番札所



ヤブコウジ(藪柑子)
ヤブコウジ科 落葉小低木
別名：十両



13:08 焼米ヶ原駐車場前、
ここからデポした四王寺県民の森センター駐車場にもう1台の車で移動

A wide-angle shot of a paved parking lot. On the left, a row of tall, dark green evergreen trees stands. Several cars are parked in the lot, including a black hatchback, a silver minivan, and a white van. In the background, a small, single-story building with a light-colored facade and a flat roof is visible. Two people are standing near the building. The sky is overcast and grey. The overall scene is a quiet parking area in a wooded area.

13:14
四王寺県民の森センター駐車場に到着
4時間15分の行動時間 解散

END